

---

# 環境経営レポート

---

2024年度版

作成日 令和7年4月18日

---

**株式会社 平尾組**

〒882-0881

宮崎県延岡市三須町879番地

Tel : 0982-34-5441 / Fax : 0982-33-9924 (担当 : 釘宮)

目次	1
1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 事業活動	2
6) 事業規模	2
7) 対象範囲	2
8) 推進組織	2
2. 環境経営方針	3
3. 環境経営目標	4
4. 環境経営目標の実績	4
5. 環境経営計画と取組評価	5
6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	6
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	7

## 1. 事業概要

### 1) 事業者名及び代表者名

有限会社 平尾組  
代表取締役 小林 哲也

### 2) 所在地

・本社 〒882-0881 宮崎県延岡市三須町879番地  
・資材置場 〒882-0881 宮崎県延岡市三須町879番地

### 3) 環境管理責任者

釘宮 毅

### 4) 連絡先

連絡担当者：釘宮 毅  
TEL：0982-34-5441 FAX：0982-33-9924  
E-mail: cavmvy7774@yahoo.co.jp

### 5) 事業活動

建設業・・・許可番号・(般-)第4874号  
認可業種・・・土木一式工事、水道施設工事、とび・土工工事、舗装工事、解体工事

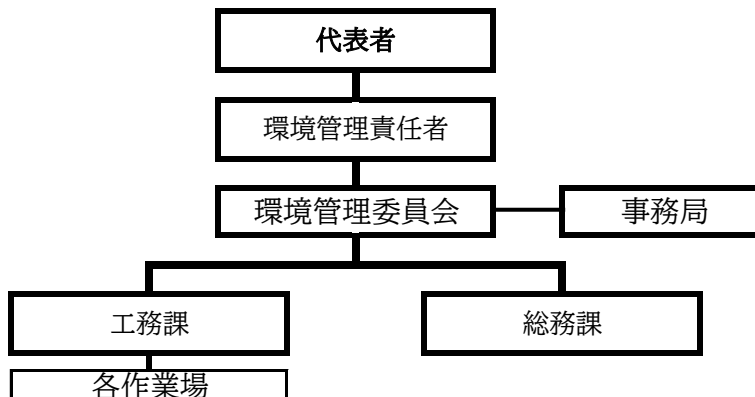
### 6) 事業規模

項目	2020年	2021	2022	2023	2024
従業員数	8	8	8	8	8
工事等の件数	4	5	4	5	6
事務所床面積(m <sup>2</sup> )	50	50	50	50	50
資材置場面積(m <sup>2</sup> )	200	200	200	200	200

### 7) 対象範囲 (全組織・全活動)

- ・対象組織・・・全社(本社、資材置場)
- ・対象活動・・・建設業(土木一式工事、とび・土工工事、舗装工事、水道施設工事)
- ・対象期間・・・2024年4月1日～2025年3月31日
- ・環境経営レポート作成日・・・2025年4月18日

### 8) 推進組織



## 環境経営方針

# 環境理念

株式会社平尾組は、土木建設業の事業活動をとおして、地球と地域の環境の保全に貢献します。

## 環境経営方針

1. 環境経営に積極的に取り組むため環境経営システムを構築し、継続的改善に努めます。
2. 以下の項目を重点事項として優先的に取り組みます。
  - 省エネ活動によるエネルギー使用量の削減
  - 作業場、オフィスにおけ省資源、及びリサイクルの推進
  - 節水活動による水使用量の抑制
3. 環境に配慮した資材活用、及び施工を推進します
4. 新技術活用や創意工夫により、安全且つ効率的施工を推進します。
5. 環境に関する法律・規則・協定を順守します。
6. 環境経営システムの内容を全社員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

改訂;令和3年4月1日  
株式会社 平尾組  
代表取締役 小林哲也

## 3. 環境経営目標

過去2年間の環境負荷及び環境への取組みの自己チェックから、中期(3ヶ年)の目標値を設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	第六次中期環境経営目標				
		基準値 (2022年4月～ 2024年3月 実績平均値)	2024年度 (2024年4月～ 2025年3月)	2025年度 (2025年4月～ 2026年3月)	2026年度 (2026年4月～ 2027年3月)	
二酸化炭素排出量の削減(kg-CO <sub>2</sub> )	全社	28,228	28,088	27,946	27,804	
1 ・ エ ネ ル ギ ー	①電力使用量の削減 (kWh)		基準比0.5%削減	基準比1.0%削減	基準比1.5%削減	
		事務所	9,713	9,664	9,615	9,567
	②ガソリン使用量の削減 (L)			基準比0.5%削減	基準比1.0%削減	基準比1.5%削減
	全社	2,950	2,935	2,921	2,906	
	③軽油使用量の削減 (L)			基準比0.5%削減	基準比1.0%削減	基準比1.5%削減
	現場	6,982	6,948	6,912	6,877	
2 廃 棄 物	①一般廃棄物の削減 (kg)		基準比0.5%削減	基準比1.0%削減	基準比1.5%削減	
		事務所	126.0	125.4	124.7	124.1
	②建設副産物の再資源化率向上 (%)	現場	95%	再資源化率95%以上		
3. 水使用量の抑制 (m <sup>3</sup> )			現状以内			
	事務所	270.0				
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	全社	環境経営計画の実施状況を目標としています				

\* 建設副産物の再資源化率は再資源化量÷総排出量×100

\* 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善は、当該環境経営計画を遵守する事を目標としています。

\* 水使用量は会長宅と同じメーターの為、現状以内を目標としています。

## 4. 環境経営目標の実績

\* 2024年4月から2025年3月までの臨時運用期間の実績は以下の通りです。

取組み項目	実施区	目標値	実績	達成率	評価	
二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	全社	28,088	49,851	56.3%	×	
①電力使用量の削減 (kWh)	事務所	9,664	9,460	102.2%	○	
	②ガソリン使用量の削減 (L)	全社	2,935	3,525	83.3%	×
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	6,948	14,880	46.7%	×
物2 減の 廃 棄 物	①一般廃棄物の削減 (kg)	全社	125.4	121.0	103.6%	○
	②建設副産物の再資源化率向上 (%)	現場	95%以上	99.2% (362.8t/365.9t)	104.4%	○
3. 水資源使用量の抑制 (m <sup>3</sup> )	全社	270.0	256.0	105.5%	○	
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	全社	環境活動計画の遵守				

\* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和2年9月公表の九州電力調整後排出係数0.347を使用しています。

\* 現場の電気使用を含めた全社の二酸化炭素排出量は、49,851.0 kg-CO<sub>2</sub>です。

## 5.環境経営計画と取組評価

取組項目	活動内容	推進責任者	取組結果	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する	総務課	・不在時の消灯やエアコンの温度管理の徹底を行い、年度末の事務作業が多くあったにもかかわらず、101.6%と目標達成となった。	○
	③空調温度管理の徹底 (夏28℃程度、冬22℃程度)	総務課		○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ、急発進及び空ぶかし防止)	工務課	・エコドライブや現場への相乗りを徹底したが、遠距離の現場等もあり82.8%の目標未達成となりました。	○
	②できるだけ現場への相乗りを推進する	工務課		○
・軽油使用量の削減	①重機や建設機械等はできるだけフルパワー操作をしないようする(アクセル割運動等)	工務課	水道工事、河川掘削工事、道路改良工事等で重機作業が多かった為、軽油使用量が目標を大幅にオーバーして46.4%の未達成となりました。但し、こまめなエンジンストップ等は徹底しています。今後も現場の状況に合った重機選定などで、効率的施工と省エネを図ります。	○
	②建設機械等はこまめなエンジンストップを行う	工務課		○
	③作業規模に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑える	工務課		○
・一般廃棄物の削減	①資源物を再生利用できるように分別する	総務課	コピー用紙の節減を主な活動として実施しています。裏紙使用や縮小・両面コピー等を推進して100.0%の目標達成となりました。	○
	②コピーは裏紙使用や両面、縮小、集約コピーに努める	総務課		○
・建設副産物の再資源化率の向上	①資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い残余材発生抑制	工務課	・現場資材発注時は在庫確認を徹底して取組んだ結果、配水管布設工事で発生した廃プラ(配水管の切れ端)が僅かに発生しましたが、全体の再資源化率は100.0%で目標達成となりました。	○
	②残余材が発生したら、持帰り分別保管	工務課		○
・水使用量の抑制	①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付	総務課	蛇口に「節水」のシールを張って意識付けを図っていますが、会社別宅と共用(メーターが一つ)している為、事務所での使用量把握は難しい状況です。	○
	②水道配管からの漏水を定期的に点検する (全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認)	総務課		○
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	①環境配慮型の建設機械を使用する (排ガス対策型、低騒音型、低振動型等)	工務課	・工事現場では、低騒音型機器・重機の使用等、騒音対策、及び振動や粉塵の発生を極力抑制するように施工しています。又、出来る限りの工期短縮を図っていますが、天候に左右される事が多くあります。	○
	②自主的に騒音・振動・粉塵・水質汚濁等の環境対策を講じて施工する	工務課		○
	③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む	工務課		○

## 6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	目標(2025年度)	活動内容
二酸化炭素排出量の削減	27,946 kg-CO2	省エネ・省資源活動の徹底
・電気使用量の削減	9,615 kWh (事務所)	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する
		③空調温度管理の徹底 (夏28℃程度、冬22℃程度)
・ガソリン使用量の削減	2,921 L (全社)	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ、急発進及び空ぶかし防止)
		②できるだけ現場への相乗りを推進する
・軽油使用量の削減	6,912 L (現場)	①重機や建設機械等はできるだけ70%以下操作をしないようする(アクセル7割運動等)
		②建設機械等はこまめなエンジンストップを行う
		③作業規模に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑える
・一般廃棄物の削減	124.7kg	①資源物を再生利用できるように分別する (最終処分量の削減を目指す)
		②コピーは裏紙使用や両面、縮小、集約コピーを努める
・建設副産物の再資源化率の向上	95%以上	①資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い、残余材発生抑制
		②残余材が発生したら、持帰り分別保管 (再利用の推進)
・水資源使用量の抑制	270.0m3	①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付る
		②水道配管からの漏水を定期的に点検する (全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認)
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	該当する環境経営計画を順守する。	①環境配慮型の建設機械を使用する (排ガス対策型、低騒音型、低振動型等)
		②自主的に騒音・振動・粉塵・水質汚濁等の環境対策を講じて施工する
		③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む

## 7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、建設業協会からの情報やWebによる情報検索等で常に最新情報等を把握し、法規制一覧としてまとめて3ヶ月毎に順守状況を確認しています。尚、関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟も過去一度もありませんでした。現場での遵守状況は、安全パトロールや安全会議時などでも確認しています

### 主な環境関連法規と遵守状況

法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告 (6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	遵守
700W排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (重機搭載のエアコンを含む)	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事 なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事 なし

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

前回の更新審査後においてエコアクションガイドライン2017年版の運用について活動目標に対する実績管理等をとおして社内での意識向上を図り、改善事案等に関しては検討、対処していくことが今後の活動において必要かと思われま。

前年度に引き続き、工事件数、受注高変動、社会の情勢に対応してエコアクション21での実状に沿った取組みを行うことは検討課題であり、更新審査後のコメントにも記述されていたアドバイスを念頭に置きながら、環境活動の推進を図ることが重要となると思われま。

現状として市及び県の公共工事をとおして発注者及び施工地域からの評価、信頼を得ることが出来ている状態を継続していくことも経営のなかで必要不可欠であります。継続して強化を進めている環境経営活動としては建設機械、車両等の適時の新規導入による工事の多様化への対応、現場毎の環境対策の工夫等が挙げられます。現時点で、環境経営方針の変更は必要ないと判断しますが、随時見直し改善を継続して行っていくことと変更が必要となった場合は実状に沿った内容で尚且つ無理のない方針に移行する所存です。